平成３０年度事業報告
（ＪＫＡ競輪補助事業）

事　業　の　目　的

全国の刑務所、少年院施設等に収容されている被収容者に対し、中央または各矯正管区管内の篤志面接委員協議会において、篤志面接委員を一堂に会して、篤志面接活動に必要な、知識、技術の向上、付与又は情報の交換を行う研修事業である。

（１）中央（全国大会）

○　開催日

平成３０年１０月１６日（火）

○　開催場所

東京都　法務省地下大会議室

○　参加人員

計　１７０名（篤志面接委員１３３名　その他関係者３７名）

○基調講演

演題「矯正行政の現状と課題」

法務省矯正局長　名執　雅子　氏

○研究発表

「篤志面接における法律相談のあり方」

福島刑務所篤志面接委員　　岩渕　敬

「篤志面接委員としての喜び」

高松刑務所篤志面接委員　　奈良　忠雄

「ともにいのちかがやく」

京都医療少年院篤志面接委員　　岡橋　聖舟

「過去は変わらなくても、未来を変える事は出来る」

美保学園篤志面接委員　　濱田　壽子

○パネルディスカッション

議題「篤志面接活動の喜びを求めて」

進行	全国篤志面接委員連盟理事	阿部　憲仁
パネラー	福島刑務所篤志面接委員	岩渕　敬
	高松刑務所篤志面接委員	奈良　忠雄
	京都医療少年院篤志面接委員	岡橋　聖舟
	美保学園篤志面接委員	濱田　壽子
	立川拘置所処遇部首席矯正処遇官	小島　弘美　氏
	茨城農芸学院教育部門統括専門官	大橋　雅夫　氏

会場入口

基調講演

研究発表

パネルディスカッション

（２）初任者研修会

○　開催日

平成３０年１２月４日（火）・５日（水）

○　開催場所

東京都　法務省地下大会議室

○　参加人員

計　７６名　（篤志面接委員　６３名　　その他関係者　１３名）

○講師

一日目

講話Ⅰ　「矯正行政と篤志面接活動の意義」～刑事施設法を中心に～

講師　矯正局成人矯正課企画官　　齋藤　行博　氏

講話Ⅱ　「矯正行政と篤志面接活動の意義」～少年院法を中心に～

講師　矯正局少年矯正課企画官　　日笠　和彦　氏

講話Ⅲ　「篤志面接活動の歴史・制度と現在の課題」

講師　全国篤志面接委員連盟理事長　　室井　誠一

班別討議Ⅰ　精神的煩悶・個人面接・各種指導等の８班に分かれて討議

講話Ⅳ　「面接指導技術」

講師　東京未来大学こども心理学部長　　出口　保行　氏

二日目

講話Ⅴ　「篤志面接活動の施設実務」

講師　府中刑務所　首席矯正処遇官（教育担当）　矢田　　豊　氏

講師　多摩少年院　首席専門官（支援担当）　　曽和　　浩　氏

班別討議Ⅱ　精神的煩悶・個人面接・各種指導等８班に分かれて討議

Ａ班（精神的煩悶・法律相談・家庭相談等）

Ｂ班（精神的煩悶・家庭相談・個人面接等）

Ｃ班（茶道・民謡・短歌等各種指導）

Ｄ班（絵画・書道・珠算等各種指導）

Ｅ班（刑執行開始時指導・改善指導・教科指導等）

Ｆ班（釈放前指導・保護相談等）

Ｇ班（釈放前指導・個別指導等）

Ｈ班（釈放前指導・進路指導・個別相談等）

会場案内

会場全景

班別討議

講義

（３）札幌

○　開催日

平成３０年７月１９日（木）・２０日（金）

○　開催場所

札幌市　札幌ビューホテル大通公園「ピアリッジホールＢ」

○　参加人員

計　１１６名　（篤志面接委員７０名　その他関係者４６名）

○講演

「依存症の心理～やめられない心理とその対応～」

北里大学医学部精神科学講師　北里大学東病院精神神経科医師　澤山　透　氏

○研究討議（班別討議）

篤志面接委員の活動分野の多様性に鑑み，各篤志面接委員が，それぞれの担当分野や関心領域に応じてグループ化し，相互に意見交換等を行うことで，その活動を一層活性化させることを目的としている。

刑事施設においては，事前に設定した大テーマごとに5グループに編成し，少年施設においては，1グループで面接技術に係る意見交換や面接実績に係る報告を行った。

更に，班別討議後，各グループ代表者1名が討議内容及び結果について発表する場を設け，参加者全員で情報を共有することで，より知見の向上を図った。

○　看板（札幌ビューホテル大通公園　正面出入口）

○　記念講演場面
北里大学医学部精神科学講師
北里大学東病院精神神経科医師
澤　山　　透　氏

○　研修大会式典場面

○　班別討議場面（刑事施設）

○　班別討議場面（少年施設）

○　討議結果発表場面

（４）仙台

○　開催日

平成３０年　７月１３日（金）

○　開催場所

山形市　ホテルキャッスル　万葉の間

○　参加人員

計　１００名（篤志面接委員５５名　その他関係者４５名）

○講演

「“竹中流”コミュニケーション術　釈放前指導を通して感じたこと，考えたこと」

講師　　モダンボーイズCOO/謝罪マスター　竹中　　功　氏

○自由討議

テーマ「社会復帰へのよりよい篤志面接活動を目指して」

討議課題「被収容者と社会をつなぐ懸け橋としての私の役割」

会場前立て看板
ホテルキャッスル
正面玄関にて

式典風景
ホテルキャッスル
万葉の間にて

演題
「竹中流　コミュニケーション術
～釈放前指導を通して
感じたこと、考えたこと～」

講師
モグンボーイズCCC／刑務マスター
竹中　功氏

特別講演風景
ホテルキャッスル
万葉の間にて

自由討議テーマ
「社会復帰へのよりよい
篤志面接活動を目指して」
討議題
「被収容者と社会をつなぐ
懸け橋としての私の役割」

自由討議風景１
ホテルキャッスル
万葉の間にて

自由討議テーマ
「社会復帰へのよりよい
篤志面接活動を目指して」
討議題
「被収容者と社会をつなぐ
懸け橋としての私の役割」

自由討議風景２
ホテルキャッスル
万葉の間にて

総会風景
ホテルキャッスル
万葉の間にて

（５）東京

○　開催日

平成３０年１１月２７日（金）

○　開催場所

さいたま新都心合同庁舎２号館５階大会議室

○　参加人員

計　１８８名（篤志面接委員１１０名　その他関係者７８名）

○講演

演題「犯罪者の社会復帰と，今，篤志面接委員に求められているもの」

講師　　全国篤志面接委員連盟常任理事　　弁護士　大川　哲次　氏

司会者　赤城少年院篤志面接委員　　青柳　良子

○個別発表

司会者　府中刑務所篤志面接委員　　柳下　　明

題目「再犯防止に向けた特別改善指導“就労支援指導”について」

発表者　新潟刑務所篤志面接委員　　川上　克義

題目「少年たちとのクラブ活動で目指していること」

発表者　新潟少年学院篤志面接委員　　本間　惠子

○自由討論会　１３グループ

ア　グループＡ　クラブ活動等を通じた情操教育

司会者　千葉刑務所篤志面接委員　椙村　愼子

イ　グループＢ　クラブ活動等を通じた情操教育

司会者　東日本成人矯正医療センター篤志面接委員　谷合　典子

ウ　グループＣ　家族関係改善に向けた働き掛け

司会者　茨城農芸学院篤志面接委員　岩岡　　正

エ　グループＤ　改善指導･特定生活指導における篤面の関わり

司会者　有明高原寮篤志面接委員　　冨岡　詔子

オ　グループＥ　高齢･障害者の問題を抱えた対象者への働き掛け

司会者　横浜刑務所篤志面接委員　竹生田　幸男

カ　グループＦ　再犯･再非行者に対する働き掛け

司会者　東京拘置所篤志面接委員　古川　髙志

キ　グループＧ　釈放前指導･出院前指導における篤面の関わり

司会者　黒羽刑務所篤志面接委員　佐藤　育子

ク　グループＨ　職業倫理と就労に向けた働き掛け

司会者　喜連川少年院篤志面接委員　杉之内　熙泰

ケ　グループＩ　大川哲次氏の講演を受けて

司会者　多摩少年院篤志面接委員　渡辺　道代

コ　グループＪ　篤面活動の充実化に向けた取組

司会者　長崎刑務所篤志面接委員　中村　純一

サ　グループＫ　篤面活動の充実化に向けた取組

司会者　甲府刑務所篤志面接委員　望月　吾郎

シ　グループＬ　篤志面接活動を通して得られたもの

司会者　榛名女子学園篤志面接委員　岸　三重子

ス　グループＭ　篤面活動を通して得られたもの

司会者　府中刑務所篤志面接委員　清水　章生

会場入り口案内板

個別発表

自由討論会

講演

（６）名古屋

〇　開催日

平成３０年１１月９日（金）

〇　開催場所

福井市　アオッサ８階　県民ホール

〇　参加人員

計　１１８名（篤志面接委員７７名　その他関係者４１名）

〇講演

演題「人とひょうたん」

講師　　全日本愛瓢会　名誉会長　　森　　義夫　　氏

〇研究発表

「ただひたすら」

発表者　富山刑務所所属篤志面接委員　　川越　教寛

「高齢者処遇（健康体操）～高齢受刑者の健やかな老いを目指して～」

発表者　岐阜刑務所篤志面接委員　　鷲見　明俊

「篤志面接委員の喜び『再犯防止に資する篤志面接活動の在り方』」

発表者　豊橋刑務支所篤志面接委員　　村松　史子

「篤志面接活動の喜び」

発表者　宮川医療少年院篤志面接委員　　吉岡　勝裕

会場（県民ホール）入口

記念講演

会場案内看板

研究発表

パネルディスカッション

（７）大阪

○　開催日

平成３０年６月１４日（木）

○　開催場所

大阪市　大阪商工会議所　地下１階会議室

○　参加人員

計　１８８名（篤志面接委員１２１名　その他関係者６７名）

○講演

演題「明石市における更生支援の取組」

講師　明石市理事（更生支援担当）　青山　　純　氏

○体験発表

進行　奈良少年院所属　大川　哲次　委員

Ⅰ「二つのお願い」

大阪刑務所所属　梶川　　伸　委員

Ⅱ「再出発へのエール」と「出会いの不思議なちから」

神戸拘置所所属　野々村　実夫　委員

Ⅲ「少女たちと歩く道」

交野女子学院所属　北村　文子　委員

会場入口看板

講演

研修状況

体験発表
（質疑応答時）

（８）広島

○　開催日

平成３０年１０月２５日（木）

○　開催場所

岡山市　リーセントカルチャーホテル

○　参加人員

計　１０７名（篤志面接委員５３名　その他関係者５４名）

○研究発表

「点訳指導を通じて」

発表者　広島刑務所所属篤志面接委員　　宇田　辰彦

「あすへ向かって」

発表者　美保学園所属篤志面接委員　　万木　秋弘

○講演

演題「ハンセン病問題から学ぶ」

講師　長島愛生園歴史館学芸員　　田村　朋久　氏

写真

会場入り口の立て看板

講演（田村朋久講師）

研修状況（1）

研修状況（2）

（９）高松

○　開催日

平成３０年１０月１８日（木）

○　開催場所

徳島市　阿波観光ホテル3階「ロイヤルパレス」

○　参加人員

計　７０名（篤志面接委員３６名　その他関係者３４名）

○分科会

ア　第１分科会【A】

テーマ：「篤志面接活動の充実強化について」

参加者：１３名

イ　第１分科会【B】

テーマ：「篤志面接委員の充実強化について」

参加者：１５名発表者

ウ　第２分科会

テーマ：「篤志面接委員の充実強化について」

参加者：１８名発表者

○講演

演題「共に生きるよろこび」

講師　真言宗御室派願成寺住職

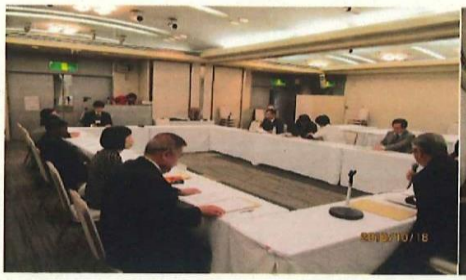
社会福祉法人白寿会理事　本部長　　大西　智城　氏

1　大会看板

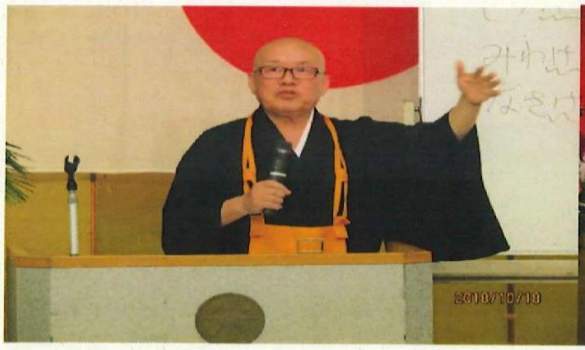
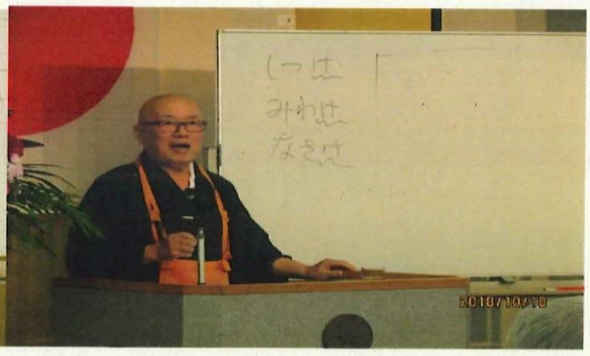
2　受付風景

3　研修風景①（開会式典）

4　研修風景②（各分科会）



5　研修風景③（講演）

6　高松矯正管区篤志面接委員協議会総会

（１０）福岡

○　開催日

平成３０年１１月２１日（水）・２２日（木）

○　開催場所

大分市　コンパルホール３階多目的ホール他

○　参加人員

計　１６９名（篤志面接委員７９名　その他関係者９０名）

○分科会　刑事施設５施設，少年施設３施設の８つのグループに分かれて研究討議

ア　第１部（共通テーマ）

「再犯防止のための施設職員との連携について」

イ　第２部（選択テーマ）

「篤志面接委員の後継者の発掘と育成について」

「被害者に対する意識をどう植え付けるか」

「少年法の年齢が引き下げられた場合について」

「篤志面接委員と更生保護施設等との連携について」

○講演

演題「ほめる達人！『笑顔･挨拶･元気』」

講師　　ほめる教育研究所　代表　竹下　幸喜　氏

平成30年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会大分大会開催会場

会場出入口付近に設置した立看板

記念講演開催状況

外部から講師を招き講演を開催

閉会式実施状況

成　　果

（１）第３１回全国篤志面接委員大会

基調講演者の法務省矯正局長名執雅子氏の講演は，矯正が直面している現状と課題，特に，国，地方自治体，民間協力者等が一体となって取り組んでいる再犯防止推進計画に関するお話しや，人権擁護の対象としてみた場合の「罪を犯した人」の問題という新たな視点からのお話など，参加者にとってわかりやすく，かつ興味深い内容であった。

個別体験発表の４名の委員は，篤志面接活動に熱意をもって取り組んでおり，施設における篤志面接活動において，直面している課題とどのように向き合い，どのような問題意識を持っているかなどについて，発表がなされ，参加者間で情報を共有することができた。その後パネルディスカッションは，これら４名の発表者に現場施設の首席矯正処遇官及び統括専門官を加え，「篤志面接活動の喜びを求めて」をテーマに行われ，大会参加者や来賓の矯正管区長や施設長も参加しての質疑応答等の活発な意見交換が行われた。

このように篤志面接委員が互いに刺激を与え合い，それぞれの見識を深めることができたことから，大変有意義な研修会であったと言える。今後もこうした形で参加者が発言できる参加型の研修を継続していくことが適当であり，本大会は，篤志面接委員のボランティアとしての使命感や知識，技術，活動意欲の向上にも大いに成果があったとの結論に達した。

（２）平成３０年度第５回篤志面接委員初任者研修会

講話Ⅰ・Ⅱでは，成人矯正課及び少年矯正課の企画官から「矯正行政と篤志面接活動の意義」をテーマに，刑事施設及び少年施設におけるそれぞれの最新の矯正行政について講義があった。連盟理事長からは，連盟機関の沿革，事業内容の説明の他，篤志面接委員としての基本的な心構えや活動にあたっての考慮すべき事項についての講義があった。大学教授である出口講師からは「面接指導技術＝攻める防犯という考え方」をテーマでの講義があった。講義を通し，篤志面接委員として求められている活動の役割についての理解が深まり，今後の活動に役立つ知識が得られた有意義な研修会であったと言える。二日間にわたり，８班（１班８名程度）のグループに分かれ，施設職員や指導委員を交えた班別討議を行った。参加者の活動分野の領域の枠を越え，悩みや疑問等の活発な意見交換がなされ，篤志面接活動の可能性や課題等に関する情報共有が図られたことは，篤志面接活動の発展に向け，大

きな効果が期待できるものであったと思料される。こうした形で初任者向け研修を継続して行くことで，委嘱間もない委員の使命感や知識，技術，活動意欲の向上や悩みの解消，さらに活動の継続性に多大な効果があると思料される。

（３）第３０回札幌矯正管区管内篤志面接委員研修帯広大会

記念講演では，依存症を専門とする精神科医師による依存症者への援助方法に関する内容であり，依存症を抱える被収容者への指導技術の向上を図る上で有益なものであったほか，班別討議では，各篤志面接委員が，自らの活動について意見交換を行うことで，指導技術の向上を図ることができた。また，本年度からは，各グループで討議した内容や結果を発表する機会を設け，参加者全員で情報共有することにより知見の向上を図るなど，今後の篤志面接活動に良い影響をもたらす有意義な研修大会であった。

（４）第６０回仙台矯正管区管内篤志面接委員研修会

「“竹中流”コミュニケーション術　釈放前指導を通して感じたこと，考えたこと」と題した竹中氏の特別講演は，同氏の刑事施設における実践に基づいた内容であり，関心を持って興味深く聞き，相手の気持の受け止め方や自らの姿と心の置き方について振り返る事ができて，今後の活動に役立てていける講演であった。自由討議においては，活動内容別にグループを構成し，討議時間も長く設定したことから，どのグループも活発な意見交換がなされており，各自の活動について細かいところまで共有することができた。

本研修大会によって，篤志面接委員としての指導技能の向上や見識を深めることができ有意義な研修大会になったと思われる。

（５）第６０回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

講演について，講師の大川氏は昭和63年から奈良少年刑務所･大阪刑務所･大阪拘置所･和歌山刑務所･大阪医療刑務所･浪速少年院･奈良少年院の７ヶ所で篤志面接委員活動を行い，全国篤志面接委員連盟常任理事，大阪矯正管区管内篤志面接委員協議会副会長，奈良少年院篤志面接委員協議会会長の篤志面接委員組織の役職をこなしている。また，大阪弁護士会や，大阪被害者支援アドボカシーセンターで犯罪被害者支援活動に取り組んでいる。講演では，刑事司法手続と犯罪者の改善更生のための手続の説明に始まり，最近の収容者の動向，再犯の状況と再犯防止の対策等の

現在の流れを概観し，ご自身の経歴を踏まえた篤志面接委員としての活動の紹介を行い，そして，現在，篤志面接委員に何が求められているのかを論じられた。日頃，被収容者との面接等を行う篤志面接委員の活動において，大いに参考となったものと考えられる。

個別発表については，新潟刑務所の川上篤志面接委員による特別改善指導「就労支援指導」における取り組みとして，受講者のロールプレイの様子や授業に集中させる手法，交流分析の紹介があった。また，新潟少年学院本間篤志面接委員による美術クラブでの活動紹介があり，詩の朗読等工夫して行っている手法の紹介があり，いずれも被収容者との関わり方の参考になるものと思料される。

自由討論会については，昨年度に引き続き，本討論会に対するアンケートを基に，10種類のテーマを設け，それぞれ約10名程度の13グループに分かれて討議を行った。各参加者の活動領域の枠を越え，様々な視点から被収容者に対する働き掛けや篤志面接活動の在り方などについて意見交換が行われ，篤志面接活動の可能性や活動内容の情報共有が図られたことは，篤志面接活動の発展に向け，大きな効果が期待できるものであったと思料される。

（６）平成３０年度名古屋矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

名古屋管内矯正施設の篤志面接委員が一堂に会し，篤志面接活動のあり方や効果的な活動方法等を話し合うことができた。

また，本大会においては基調講演講師として，全日本愛瓢会名誉会長である森義夫氏を招へいし，ひょうたんの育成と篤志面接委員の活動には，地道な努力が必要であるという共通点があることを教示していただいた。

最後に，本協議会を通じて，各施設所属の篤志面接委員との交流により，各々の指導技術の向上や見識を深めることができ，大変有意義な協議会であった。

（７）平成３０年大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会

講演では，地方行政における再犯防止のための先進的な取組について詳しく知ることができた。篤志面接委員による体験発表では，いずれ社会へ送り出すことになることを念頭に置きながら行う在院生や受刑者に対する働きかけについて，様々な立場から意見交換を行うことで考えが深まるとともに，それぞれの篤志面接委員が熱意を持って篤志面接活動に取り組んでいることが改めて実感できた。以上のよう

に，参加者の見識を深め，篤志面接活動に向けての動機づけを高めることのできた，大変有意義な研究会であったと言える。

（８）第３１回広島矯正管区管内篤志面接委員研究協議会研修大会

前回まで研究発表者３名で助言者を同発表者が所属する刑事施設の統括矯正処遇官（少年施設にあっては統括専門官）等が，同発表者の日頃の活動等の紹介又は発表に関する補足説明等をしていたが，今回から，発表者を２名とし，質疑応答を充実させるため助言者を廃止して質疑応答時間を確保したところ，「研究発表において，十分な時間がとられて良かった。」，「昨年発表した経験から，１５分では短く，内容を詳しく発表できなかった。今年は発表者を２名に絞ったのは良かったと思う。」などの意見を頂いた。

また，講演については，「ハンセン病患者の人権問題について深く考えることができ，被収容者の「自分がどのように見られているのか。」という思いに共通点を感じ，人間の尊厳とは何かを問いかけられた。その意味においては，篤志面接委員に求められていることにも通じるものがあると感じた。」などの意見を頂くなど，篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができる有意義な研修大会となった。

（９）第５７回高松矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

研修テーマである「篤志面接活動の喜びを求めて～篤志面接活動の更なる充実と発展を目指して～」に基づき，高松矯正管区（四国４県）篤志面接委員協議会に所属する篤志面接委員が一堂に会し，刑事施設や少年施設における篤志面接活動に関する討議を実施するとともに，相互の親睦を図ることを目的として研究協議会を実施した。

分科会では，高松橋正管区篤志面接委員協議会では初の試みでもある，分科会方式の自由討論を３グループに分けて実施し，篤志面接委員相互で意見交換ができる場を設け，各篤志面接委員に「活動内容」，「活動するに当たって心掛けていること」，「篤志面接委員の充実強化のためには，何が必要とされているか」等の発言を行わせるとともに，助言者（施設職員）に説明や要望等を求めるなど，各施設間における情報を共有することにより，それぞれの被収容者の目的に沿った篤志面接活動について，それぞれの立場や「成人･少年」の枠を越え協力体制を構築し，分科会テーマである「篤志面接活動の充実強化」につながる意見交換を行うことができた。

講演では，講師として真言宗御室派願成寺住職及び社会福祉法人白寿会理事・本

部長でもある大西智城氏を迎え,「共に生きるよろこび」と題し，人には誰しも「良いところ」,「悪いところ」がある。一方で，被収容者は「悪いところ」が目立ってしまうため，我々は角度を変えて物を見て行くことにより，被収容者の「良いところ」を認めることが大切であることを認識することができた。また，世の中には，障害のある人，老人，男，女，少年とたくさんの人と共に生きて行かなければならないため，自分基準の考え方ではなく，相手の良いところを見つけて，認めることにより「共に生きるよろこび」を感じなければならないという，発想の転換の方法を学ぶことにより，今後の篤志面 接活動の参考になったと思料される。

今回の研究協議会では,分科会にて篤志面接委員相互の情報交換を行うことで篤志面接活動の充実強化につながる討論ができるとともに，講演では発想の転換方法を学ぶことにより，篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができ有意義な研究協議会だった。

（１０）平成３１年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会

本大会では，８つのグループに分かれ，共通テーマである再犯防止のための施設職員との連携に向けた篤志面接活動についての討議や,昨年度の研究会において討議したいテーマとして挙げられた複数のテーマについて，各グループで選択して討議することができた。また，記念講演においても被収容者との面接や指導に生かせる講演内容であり，本大会を通して篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができる有意義な研究会であった。

今後予想される効果

研修会を通して，新たな知識・知見また矯正行政の実情や方向性を知り得ることで，より効果的な篤志面接活動を展開し，被収容者の再犯や再非行の防止に貢献する大きな効果があると予想されます。また，本大会の記録誌を作成することにより，参加者はもちろんのこと，参加できなかった篤志面接委員にも配付することによって，矯正行政の現状及び課題や篤志面接活動における様々な知識・技術等の知識が付与され，今後の活動意欲を一層喚起させ，被収容者の抱える問題に応じた高度な面接活動が実施されると思料されます。